まえがき

私は、少し変わったな少年だったと思う。とにかく勉強（学校の）が好きでなかった。自分の好きなことだけに熱中している子だった。クラブ活動には全く熱中しなかった。与えられるものには興味が沸かなかった。

小学時代から始めた昆虫採集はトンボから蜂へと変わり、中学２年で６０年安保闘争を迎え、政治に関心を持つようになった。黒板に岸首相の出っ歯の似顔絵と「安保反対」と落書きして先生に叱られた。

勉強嫌いの私は、一応大学を目指して高校の普通科へ進んだ。試験勉強も嫌いだから当然、高校一年の中間試験の結果も最悪で５０人中４８番。この結果を見て、すぐ大学進学をあきらめた。大学をあきらめた故かどうかは分からないが、この頃から人生論・哲学の本をよく買った。よく読んだわけではなく、よく買った。学校帰りに買った本を見て、本屋のおばさんが「こんな本を読むの・・？」と言われた本は「哲学・論理用語辞典」だった。この本の裏に下手な字で「春待てど、時は冬なり」と落書きしてある。還暦を過ぎてこの落書きを発見し、あらためて「哲学者」を夢見た青春時代を懐かしく想う。

この「青春の邂逅ょり」は、高校３年の「同級生との論争」の記録と日記、卒業後のＹＨＧ（ユースホステル豊川グループ）との出会い、ろう者・手話との出会い。その幾多の出会いの中で、その時々に読んだ本より選び記録し、私の人生を拓いてくれた「言葉」をまとめたものです。雑多な本から抜き出した、私にとり珠玉の「言葉」だ。今、あらためて読み直して見ると、私の人生の指針・助言となっていた「言葉」の数々に感謝せずにはいられない。この「人生を拓いてくれた言葉」の文中へ、私の青春時代の拙い「なみ投稿文（ＹＨＧ機関誌）」を年順に挿入し、最後にＭｙブログ「団塊エッセー」と「思いつくままに（2010）」を加えまとめた。

還暦を過ぎた自分の、苦悩し、悶えた青春からの軌跡をまとめ、「三途の川」の友とするために作成した。これまでに出会った方、出会った本、出会った山、全ての出会いに感謝し、そして家族に。

※　本書の中で出典名が書いてないもの、作者名のない「言葉」が沢山ありますが、記録者の未熟さ故とご理解ください。